

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392700031		
法人名	社会福祉法人 愛燦会		
事業所名	グループホーム長寿の家(ふじユニット)		
所在地	愛知県津島市江西町4-148		
自己評価作成日	平成29年1月15日	評価結果市町村受理日	平成29年4月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhou_detail_2016_022_kani=true&UgyosyoCd=2392700031-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階
訪問調査日	平成29年2月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居者に不安なく楽しく過ごしていただき、職員全員が馴染みの関係となって共同生活を送れるように、「家族のようなあたたかい家」を目標に取り組んでいる。不穏状態になりやすい方や徘徊が目立つ方も増えてきたが、個別のニーズを汲み取って拘束にならない方法で声掛け、誘導など個別対応し、落ち着いて過ごせるよう支援している。ほぼ毎月外食レクを実施するほか、天王川公園や地元の行事もよく見に行っている。食事の支度(調理を除く)や後片付け、物干し等の簡単な家事も、入居者と職員が毎日協力して行う事で、日常生活自立度の維持に努めている。毎日体操の時間を設け、職員が工夫したレクリエーションと共に楽しみながら体力維持を図っている。毎年9月(開設月)にはご家族を招待して、一年間のスライドショーや職員の出し物を披露するイベントを開催している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅地の中に落ち着いた色合いの事業所が位置し、今年で6周年を迎えた。地域には津島神社や天王川公園があり、四季の変化や祭りの賑いを感じながら散歩を楽しんでいる。法人の理念「あなたが楽しいとわたしは嬉しい」と事業所の理念「家族のようなあたたかい家」を基本に、職員は入居者それぞれが自分らしさを発揮し安心して過ごせるように、入居者に寄り添った支援に取り組んでいる。地域の伝統や風情をテーマにして入居者と一緒に作品を作り、地区の文化祭に毎年出展をしている。書物で昔の写真や地域の情報を見て懐かしんだり、昔から足を運んでいたお千代保稲荷へ出かけたりして日々の暮らしの中に回想法を取り入れて、馴染みの関係性を大切に支援している。大正琴や銭太鼓など市民ボランティアによる催し物は、楽しみな活動の一つとなっている。また、絵手紙やちぎり絵は、入居者の趣味を活かした力作が飾られている。菜園で育てた野菜を収穫して献立に取り入れられたり、手作りおやつも皆で作ったりして美味しさを分かち合っている。明るくゆったりとしたリビングでゲームや体操を楽しんだり、歌や会話などをして穏やかに過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で話し合って考えた「家族のようなあたたかい家」という理念を共有し、一人一人にあったケアを心掛け、寄り添うようにしている。玄関と、ユニット内にも掲げている。	法人理念、「あなたが楽しいと、私は嬉しい。」と、事業所の理念、「家族のようなあたたかい家」を管理と職員で意見を出し合い作成し、玄関、事務室、ユニットに掲示している。理念に沿った具体的なケアが実践できるように取り組んでいる。また、職員相互に気付き促しをしながら理念を振り返り、共有を深めケアに活かすように心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度も、地区の文化祭行事に入居者の作品を出品させてもらったほか、近所の飲食店や商店を外出先として利用したり、小学校の音楽会鑑賞への参加、保育園児との交流行事、地域の防災訓練やごみゼロ運動への参加、市民ボランティアの受け入れを行った。	町内会に加入し、地域の防災訓練、ゴミゼロ運動や地区の文化祭に作品を出展し、お茶会などに参加している。小学校の音楽鑑賞会、幼稚園児との交流もある。図書館で紙芝居を利用したり、散歩や買い物に出かけ地域の人と挨拶を交わし、地域の人と触れあう機会を大切にしている。事業所内の研修室を地域の行事や集会に活用できるようにして交流を深める方法を模索中である。	開設6年目であるが、地域の情報収集や協力体制の拡張に足踏み状態が感じられる。ボランティアの受け入れだけでなく、施設のPRや情報提供、開放事業など地域へ向けた新たなアプローチを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人内の夏祭りの説明会において、施設長が、認知症の方の対応について説明をしている。地域貢献の一環として、災害時に近所の方が避難してくる事を想定して、非常食などの備蓄品の量に余裕を持たせている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	規定に沿って定期的に開催している。特に行事と内部研修の説明に力を入れている。地域連携の意味合いで、回覧板を回して頂くようになり、地域の行事を知ることや参加できるようになった。	入居者、家族、地区嘱託、民生委員、包括支援センター、高齢介護課職員の参加を得て、2か月に1回開催している。プロジェクターで行事、外出レクや防災訓練などを報告したり、研修の内容や資料の配布も行っている。議事録を全ての家族に送付し、内容は家族に周知されている。会議の場で出された意見は真摯に受け止め、具体的な対応策を検討し、業務の改善に役立てている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に運営推進会議の時に、制度上の事、届け出の事等を相談している他、入居者や待機者の情報交換も行っている。会議以外でも、疑問に思う事などがあれば連絡し、確認してもらっている。	推進会議の資料等の配布や代行申請、更新手続きの折に、行政担当者に指導や助言を得ている。また、市主催の研修会に参加したり、機会あるごとにサービスの内容を伝え、協力関係を深めるようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議でも研修・事例検討を行い、理解を深め、拘束をしないよう努めている。言葉の暴力も無いように努め、入居者様の言葉に耳を傾けてい案す。また、ユニット出入口と玄関の施錠は最低限にするよう取り決めている。	身体拘束のマニュアルを作成し、研修や朝礼の申し送り時に職員の理解や意識を高める努力をしている。特にスピーチロックに配慮し、束縛感のない生活環境作りに努めている。夜間の転倒防止に配慮し、離床センサーや涼やかな鈴の音の利用については、家族に説明と同意を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議の研修などもあり、意識している。職員間でも気が付いたら、注意しあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関係者と話し合うまではないが、職員会議の研修の場などで学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が一元的に行っている。締結・解約は直接説明しており、改訂等は文書で説明の上同意書をいただいている。職員が問い合わせを受けた場合は管理者に繋ぐようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望は随時受け付けており、管理者が内容を集約し、職員への指示、施設長への報告を行い、運営に反映させるようにしている。ユニットで女性の中に1人だけ男性だった時があり、奥様より相談があり、ユニットの変更を行った。	入居者からは日々のケアの中から意向を聴取し、意見や要望などは申し送りノート等に記録し、会議で検討して運営に反映させている。家族からは、面会や行事の折に、入居者の状況を話すことによりきっかけを作り、意見を引き出すようにしている。得られた意見等は検討し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は原則フロアで意見内容をまとめ、フロアリーダーを通じて報告を上げる。管理者は常時意見を受け付けており、内容を集約して施設長に報告、またはリーダーとケアマネとの運営会議にて話し合い、運営に役立てている。	ユニット、全体会議やケースカンファレンス、日常業務の中で、職員の意見や提案、希望を把握している。また、申し送りノートを活用し、必要に応じ反映している。人事考課を基に、年2回の面談を実施し、また、個別の面談も有り職員の要望や意見、悩みなどを聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者からの報告や、各職員の面談に基づいて把握し評価している。勤務時間帯や希望休については、極力各職員の希望を取り入れて調整を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、職員会議で1～2題の内部研修を実施して技術と知識の向上に努めています。今年度は認知症ケアについて力を入れ、毎月研修を行いました。毎回研修受講シートの提出を義務付け、今後の目標を考えるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	必要に応じて他施設の行事や研修に参加できる体制を取っている。同業者の見学に対してもオープンに対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	挨拶や声かけを意識的に行い、話を傾聴し、安心して頂けるよう話をするようしている。また、体調や表情を注意深く観察するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの意向を事前に職員に知らせ、入居時や面会でみえた時などにお話を伺い、必要な内容は職員間で共有している。また、接遇面にも気を付けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前情報を共有し、職員間でニーズを検討し、ご家族にも聞き取りを行い、サービスに活かせるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理や洗濯など出来ることは一緒に行い、行って頂いたら、お礼を忘れないようにしている。人の役に立っている喜びを感じて頂きたいと努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会やプラン作成時には、家族のニーズもお聞きしている。必要に応じて家族に協力をお願いする事もある。また、日頃の様子も伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会にみえた時に、ゆっくり話が出来るよう環境作りに努めている。また、帰られる時には、いつ来て頂いても良い事を伝えています。	友人や知人の来訪時には、共用空間や居室で落ち着いて過ごせるよう配慮したり、スーパーや喫茶店などに外出したりして、今までの関係を継続ができるように心がけている。縫物や将棋、畑作業など趣味の継続や、培った経験を楽しみながら日常に活かすような支援を大切にしている。また、外出レクとして懐かしい場所、神社、公園への訪問など、これまでの生活の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で会話がない時は、職員が間に入り、話しかけたり、ゲーム等をしたりしています。逆に会話があらずみ良い雰囲気の時には介入せずに見守って、お互いに良い関係が続くように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事業所として積極的に関わっていく事はない。本人・家族及び現在サービスを受けている事業所等の求めに応じて対応する。再入所や系列事業所の利用希望には特に配慮して支援していません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から意向をうかがうようにしている。困難な方には日常の様子観察の中から本人の思いや意向を汲み取るように努めている。	日々のケアの中で会話や態度、表情から希望や意向を読み取り、送りノートに記録し、ケアプランに反映している。家族の希望や意向も確認し、ユニット会議で話し合っている。思いの表出の少ない方については、家族から情報を得たり、日々じっくり関わる中で思いを読み取るようにしている。随時職員間で話し合い、本人の思いに沿えるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前調査の内容や資料を職員間で共有し、本人や家族からも直接お話をうかがうなどして、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態観察と情報共有によって努めている。職員間で話し合っ、変化に応じた対応方法を考え、現状や変更内容を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りや担当者会議、フロア会議を利用して話し合えるようにしている。ご家族にも担当者が直接相談して計画づくりをしている。	入居者や家族の思い、ユニット職員の意見の基に、カンファレンスで話し合いをし、医師や看護師の意見を反映して、介護計画を作成している。3か月に1回のモニタリングを行い、随時見直しをしている。家族に内容を説明し同意を得え、どの職員も記録内容を共有し、同じケアができるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、サービス計画に基づいた観察内容を記録し、いつもと違う変化があれば申し送りなどで共有し、プランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人によって、経過とともに変わるニーズに合わせ、可能な限り個別対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの場所として、天王川公園や津島神社等のほか、市立図書館、地域のスーパーに買い物に出かけたり、飲食店をよく利用する。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本は同意のもとで嘱託医がかかりつけ医になり、定期的な訪問診療を行っている。希望に応じて以前からのかかりつけ医の診療を継続する事も可能である旨、入所前に説明している。	入居時にかかりつけ医、提携医の希望を聞いて選んで頂いている。かかりつけ医を希望する入居者は状況により事業所に対応している。内科協力医の往診が2週に1回、歯科は月1回あり、希望により眼科への受診でき、適切な医療を受けられるような支援をしている。受診に関わる情報や薬の取り扱いについては、職員間で確認しながらケアにつなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問時に変化や状況を伝え、助言をもらい、医療機関へ繋いでいる。訪問看護師へ伝える事をまとめる用紙を作成して、漏れのないように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーの提供や、必要に応じての情報交換を行っている。入所希望者の情報交換の兼ね合いもあり、市民病院の医療連携室とは連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の重要事項説明において、事業所の現在の体制と方針を説明している。	看取りは行っていないが、重度化や終末期、看取りについては入居時に意向や希望を確認している。状況が変化した場合はその都度、本人や家族に希望を再確認し、併設事業所に繋げるなどの具体的な支援などを話し合っている。医師や看護師、その他関係機関と話し合いながら、入居者にとって最善の援助ができるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、職員会議において対応について研修を行っている。また、施設内で救急隊員による救急救命講習を年に1回実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、それぞれ昼と夜の想定で防災訓練を実施している。避難の為のマニュアルを作成し、周知している。	年2回昼、夜間の火災を想定した訓練を行っている。防火設備業者の立会いの下に、訓練を実施し講評も得ている。様々な場面を想定し、職員も通報の手順、消火器の扱い方を熟知している。水や食料など3日分の備蓄を蓄えている。地域との協力関係や備蓄については模索中である。	消防署の協力を得て、消防署立ち会いのもとに訓練を実施し、避難経路や安全確保などについて指導と助言を頂き、安全性の高い訓練をするように願いたい。また、運営推進会議等で役割りを決めての訓練や施設の機能など具体的に話し合う機会を設け、相互に協力体制を整えていくことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その時の雰囲気や、その方の性格も考慮して、話しかけ方や場所、周囲の状況などに配慮している。丁寧な声かけも意識している。	接遇研修を行い、意識を高めるようにしている。普段の関わりの中で、言葉掛けや対応など入居者の思いやプライバシーに配慮し、本人の気持ちになって支援ができるように心がけている。また、入居者の個性や人格、相性などを考慮し、それぞれのプライバシーや立場を尊重したケアに心がけ、より良く過ごせるように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を伺ったり、選択できるような声かけをし、小さなことでも自己決定できるようにしている。出来る限り、希望に添えるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課のペースはあるが、入居者のペースを重視し、希望の訴えや表情から意思を汲んで支援するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分でできる方は自由に楽しんでもらい、出来ない方には季節にあった服装を勧めたり、一緒に選んだりしている。髪をとかししたり、髭をそったり、爪を切ったり等の整容にも気を付けて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、配膳、片付けは、職員とできる入居者が協力して毎日行っている。調理レクやおやつ作りなども定期的に行っている。職員と一緒に食事をする機会が月に1回以上はある。外食レクでは、ご自分でメニューを選んで頂いている。	季節や行事などに配慮し、栄養バランスのとれた食事が施設の厨房で調理された食事を、入居者と共に小皿などへ盛り付けをしている。月1回入居者の希望を取り入れた献立や各フロアで食べたいおやつを聞いたり、畑で育てている野菜を献立に取り入れている。おやつを買に行ったり、手作りおやつや外食など食べる楽しみを継続させている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方の好みや体調に合わせて飲む物や量の調整を行っている。水分摂取不足にならないように、摂取内容や時間、声掛けの仕方にも気を付けている。摂取量の記録も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その人に合わせた援助をしている。義歯を外すなど嫌がられる事もあるが、時間を空けて何度も声かけし対応している。義歯のある方は、夕食後は預り、洗浄剤を使用し、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンをつかんで誘導できるように取り組んでいる。誘導の声かけも小さな声で言うなど配慮している。介助が必要な方も、出来るだけ自分で出来るように接している。現在、おむつ使用の方はいない。	トイレでの排泄を目指して、チェック表は記入しているが、個々の基本的な生活リズムをつかみ、さりげなく声かけをして誘導している。トレーニングパンツを使用して過ごせるよう支援している。夜間も、尿意を感じ自分でトイレに行くことを大切に、丁寧な見守りの支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に排便状況を把握し、飲料(牛乳、ヤクルト等)や運動を勧めたり、摂取物(バナナ等)を工夫し、予防に取り組んでいる。それでも改善しない時には、医師に相談し個々に合わせた薬を服用する。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	なるべく希望に沿うよう対応しているが、基本の曜日や時間帯は決まっている。気持ちよく入浴できるように、声掛け誘導にも個別に配慮している。	入浴は、1日おきに午後の時間帯で湯温、入浴介助は一人ひとりに合わせて対応している。季節に合わせて、ゆず湯や菖蒲湯等を実施し入浴を楽しめるよう配慮している。入浴を拒む方には、声かけを工夫したりタイミングを見計らい、気分転換を図って気持ちよく入浴できるように支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は自由に休息してもらい、夜間も照明や温度に気を付け、気持ちよく休めるようにしている。昼夜逆転してもいけないので、日中は出来るだけリビングで楽しく過ごして頂けるよう工夫をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容の変更があった時などには、フロアの職員が分かるように申し送り、記録にも残している。また変更時には、特に様子の変化に気を付けて観察するようにしている。何かあれば、すぐに医師へ連絡するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の趣味や特技、好きそうな事を生かしたレクや作品づくり(絵手紙、ちぎり絵、編み物など)、歌、脳トレ(間違え探しや計算問題、大人の塗り絵など)などを提供するようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や近所への買い物には対応できるように努めている。また、外食やドライブ等、ボランティアの方にも協力してもらい、対応をしている。時には、家族の方にも協力してもらい、気分転換に喫茶など外に連れ出して頂く事もある。	これまでの生活の継続として外に出ることに支援をしている。四季の移ろいを感じながら職員と一緒に周辺を散歩したり、喫茶店や買い物などに出かけている。花壇や菜園の手入れをしたり、野菜の収穫なども行い外気に触れる機会を大事にしている。桜、藤、しょうぶなどの花見に神社や公園、稲荷に出かけている。ボランティアや家族の協力を得て個々のニーズに合わせて、できるだけ入居者の思いが反映できるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事務所管理だが、買い物や週一回あるパン販売の時などで、可能な方には自分で財布を持って支払ってもらったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて対応している。携帯電話も持ち込み可だが、現在は該当者はいない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面などを利用して入居者様の作品や季節感のある作品を飾っている。席は、机の配置も含め、入居者様同士の相性を配慮して決めている。	食堂兼居間は、ワンフロアの共用スペースとなっており、採光や風通しも良く、入居者の動きや気配がよく見渡せる。安全面に配慮し廊下には何も置かず、開放感と清潔感が伺われる。みんなで体操やリクリエーションを楽しみ元気に過ごしている。季節の作品や行事の写真が心地良く飾られている。それぞれのユニットごとに、居間のソファの配置を工夫し、ゆっくり腰を掛けテレビを見たり、会話を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の席以外に自由に使えるソファや相性を考慮した席順など配慮しており、独りが好きな方も、仲の良い方同士も、自由に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や家族との写真などを持って来ていただいている方もあります。物や衣料を自分で整理できない方は、その方にあつた配置を考え整理の援助を行っています。	ペットや筆筒、テレビ、仏壇など、自宅で使用していた物を持ち込んで安心できるスペースや環境作りをしている。また、手作り作品、写真など好みに応じて飾ったり、化粧道具を置いたりして、自分らしい落ち着いた過ごせるように工夫をしている。清掃を自身で行う方もおり安全で自立した生活が送れるような支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に移動して頂くために、歩行器やシルバーカーを置く位置が分かるように床に目印を付ける等の対応をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392700031		
法人名	社会福祉法人 愛燦会		
事業所名	グループホーム長寿の家(さくらユニット)		
所在地	愛知県津島市江西町4-148		
自己評価作成日	平成29年1月15日	評価結果市町村受理日	平成29年4月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhou_detail_2016_022_kani=true&UgyosyoCd=2392700031-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階		
訪問調査日	平成29年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居者に不安なく楽しく過ごしていただき、職員全員が馴染みの関係となって共同生活を送れるように、「家族のようなあたたかい家」を目標に取り組んでいる。不穏状態になりやすい方や徘徊が目立つ方も増えてきたが、個別のニーズを汲み取って拘束にならない方法で声掛け、誘導など個別対応し、落ち着いて過ごせるよう支援している。ほぼ毎月外食レクを実施するほか、天王川公園や地元の行事もよく見に行っている。食事の支度(調理を除く)や後片付け、物干し等の簡単な家事も、入居者と職員が毎日協力して行う事で、日常生活自立度の維持に努めている。毎日体操の時間を設け、職員が工夫したレクリエーションと共に楽しみながら体力維持を図っている。毎年9月(開設月)にはご家族を招待して、一年間のスライドショーや職員の出し物を披露するイベントを開催している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅地の中に落ち着いた色合いの事業所が位置し、今年で6周年を迎えた。地域には津島神社や天王川公園があり、四季の変化や祭りの賑いを感じながら散歩を楽しんでいる。法人の理念「あなたが楽しいとわたしは嬉しい」と事業所の理念「家族のようなあたたかい家」を基本に、職員は入居者それぞれが自分らしさを発揮し安心して過ごせるように、入居者に寄り添った支援に取り組んでいる。地域の伝統や風情をテーマにして入居者と一緒に作品を作り、地区の文化祭に毎年出展している。書物で昔の写真や地域の情報を見て懐かしんだり、昔から足を運んでいたお千代保稲荷へ出かけたりして日々の暮らしの中に回想法を取り入れて、馴染みの関係性を大切に支援している。大正琴や銭太鼓など市民ボランティアによる催し物は、楽しみな活動の一つとなっている。また、絵手紙やちぎり絵は、入居者の趣味を活かした力作が飾られている。菜園で育てた野菜を収穫して献立に取り入れられたり、手作りおやつも皆で作ったりして美味しさを分かち合っている。明るくゆったりとしたリビングでゲームや体操を楽しんだり、歌や会話などをして穏やかに過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で話し合っ考えた「家族のようなあたたかい家」という理念を共有し、思いやりを持って業務に当たっている。玄関と、ユニット内にも掲げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度も、地区の文化祭行事に入居者の作品を出品させてもらったほか、近所の飲食店や商店を外出先として利用したり、小学校の音楽会鑑賞への参加、保育園児との交流行事、地域の防災訓練やごみゼロ運動への参加、市民ボランティアの受け入れを行った。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人内の夏祭りの説明会において、施設長が、認知症の方の対応について説明をしている。地域貢献の一環として、災害時に近所の方が避難してくる事を想定して、非常食などの備蓄品の量に余裕を持たせている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	規定に沿って定期的開催している。特に行事と内部研修の説明に力を入れている。地域連携の意味合いで、回覧板を回して頂くようになり、地域の行事を知ることや参加できるようになった。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に運営推進会議の時に、制度上の事、届け出の事等を相談している他、入居者や待機者の情報交換も行っている。会議以外でも、疑問に思う事などがあれば連絡し、確認してもらっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議でも研修・事例検討を行い、理解を深め、拘束をしないよう努めている。ユニット出入口と玄関の施錠は最低限にするよう取り決めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議の研修などもあり、意識している。職員間でも気が付いたら、注意しあい接している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	十分に理解できてはいないが、職員会議の研修の場などで学んでいる。現状、制度の活用はしていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が一元的に行っている。締結・解約は直接説明しており、改訂等は文書で説明の上同意書をいただいている。職員が問い合わせを受けた場合は管理者に繋ぐようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望は随時受け付けており、管理者が内容を集約し、職員への指示、施設長への報告を行い、運営に反映させるようにしている。ユニットで女性の中に1人だけ男性だった時があり、奥様より相談があり、ユニットの変更を行った。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は原則フロアで意見内容をまとめ、フロアリーダーを通じて報告を上げる。管理者は常時意見を受け付けており、内容を集約して施設長に報告、またはリーダーとケアマネとの運営会議にて話し合い、運営に役立っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者からの報告や、各職員の面談に基づいて把握し評価している。勤務時間帯や希望休については、極力各職員の希望を取り入れて調整を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、職員会議で1~2題の内部研修を実施して技術と知識の向上に努めています。今年度は認知症ケアについて力を入れ、毎月研修を行いました。毎回研修受講シートの提出を義務付け、今後の目標を考えるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	必要に応じて他施設の行事や研修に参加できる体制を取っている。同業者の見学に対してもオープンに対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常生活の中で出来る限り、コミュニケーションをとるように心掛け傾聴し、より良い関係作りに努めています。また、他の職員からも情報交換し、家族からも情報を得るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からのニーズを事前に職員に知らせ、入居時や面会でみえた時などにお話を伺い、必要な内容は職員間で共有している。また、接遇面にも気を付けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前情報を共有し、職員間でニーズを検討し、ご家族にも意向を伺い、サービスに活かせるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話をしながら、その日の身体的・精神的状態をみて、出来る事(ご飯の盛り付け、洗濯干し、洗濯たたみ等)は一緒に行ってもらっている。出来ない部分は支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会やプラン作成時には、家族のニーズもお聞きしている。必要に応じて家族に協力をお願いする事もある。また、日頃の様子も伝え、今後のケア方法について一緒に考えたりもしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた時には、ゆっくり話が出来るように環境作りに努めている。時には、会話が途切れたりしないようにや思い出して頂けるようにといった意味で、声をかけさせて頂いたりしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃から、職員が会話やレクリエーションの際にご利用者の間に入ったり、配慮して良い関係が続くように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事業所として積極的に関わっていく事はない。本人・家族及び現在サービスを受けている事業所等の求めに応じて対応する。再入所や系列事業所の利用希望には特に配慮して支援しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、会話、言動、表情などを汲み取り、本人様の思いに添えるように努めている。また、3ヶ月に1回のモニタリングにおいても希望、意向を聞き、話し合っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前調査の内容や資料を職員間で共有し、本人や家族からも直接お話をうかがうなどして、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態観察と情報共有によって努めている。職員間で話し合っ、変化に応じた対応方法を考え、現状や変更内容を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りやカンファレンス、モニタリング、フロア会議等を利用して話し合っている。ご家族にも担当者が直接相談して計画づくりをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録には、日々の様子、状態、変化、ケアプラン等の記載をしている。職員間で情報共有し、話し合いながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態・状況に応じたニーズ・サービスを導入するように努め、可能な限り柔軟な個別対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの場所として、天王川公園や津島神社等のほか、市立図書館、地域のスーパーに買い物に出かけたり、飲食店をよく利用する。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本は同意のもとで嘱託医がかかりつけ医になり、定期的な訪問診療を行っている。希望に応じて以前からのかかりつけ医の診療を継続する事も可能である旨、入所前に説明している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問時に変化や状況を伝え、助言をもらい、医療機関へ繋いでいる。訪問看護師へ伝える事をまとめる用紙を作成して、漏れのないように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーの提供や、必要に応じての情報交換を行っている。入所希望者の情報交換の兼ね合いもあり、市民病院の医療連携室とは連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の重要事項説明において、事業所の現在の体制と方針を説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、職員会議において対応について研修を行っている。また、施設内で救急隊員による救急救命講習を年に1回実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、それぞれ昼と夜の想定で防災訓練を実施している。避難の為のマニュアルを作成し、周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の性格にも配慮し、人生の先輩として敬意を払いつつも、親近感を感じられる対応をしている。慣れあいにもならないように注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で、ご自分で考えたり、決定してもらえるように、声かけにも気を付けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全体で日課のペースはあるが、出来る限り一人一人の希望や、その時々体調、気分に応じて柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で出来る方は自由に楽しんでいただき、そうでない方も着替えを一緒に選んだり、身につける物を一緒に買いに行ったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、配膳、片付けは、職員とできる入居者が協力して毎日行っている。調理レクやおやつ作りなども定期的に行っている。職員と一緒に食事をする機会が月に1回以上はある。外食レクでは、ご自分でメニューを選んで頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方の好みや体調に合わせて飲む物や量の調整を行っている。水分摂取不足にならないように、摂取内容や声掛けの仕方に気を付けている。摂取量の記録も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その人に合わせた援助(声掛けのみ、道具を渡して誘導、部分介助、全介助)をしている。義歯を外すなど嫌がられる事もあるが、時間を空けて何度も声かけし対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握に努め、その方に合わせた時間や動きを見て、声掛け誘導を行うようにしている。おむつ使用者はいない。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に排便状況を把握し、飲料(牛乳、ヤクルト等)や運動を勧めたり、摂取物(バナナ等)を工夫し、予防に取り組んでいる。それでも改善しない時には、医師に相談し個々に合わせた薬を服用する。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	なるべく希望に沿うよう対応しているが、基本の曜日や時間帯は決まっている。気持ちよく入浴できるように、声掛け誘導にも個別に配慮をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活パターンに合わせて休んでいただいている。日中休みたい方には休んで頂くが、昼夜逆転しないようにも、注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容の変更があった時などには、フロアの職員が分かるように申し送りをする。また変更時には、特に様子の変化に気を付けて観察するようにしている。何かあれば、すぐに医師へ連絡するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の趣味や特技、好きそうな事を生かしたレクや作品づくり(絵手紙、ちぎり絵、編み物など)、歌、脳トレ(間違い探しや計算問題、大人の塗り絵など)などを提供するようになっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や近所への買い物には対応できるように努めている。また、外食やドライブ等、ボランティアの方にも協力してもらい、対応をしている。時には、家族の方にも協力してもらい、気分転換に喫茶など外に連れ出して頂く事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事務所管理だが、買い物や週一回あるパン販売の時などで、可能な方には自分で財布を持って支払ってもらったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて対応している。携帯電話も持ち込み可だが、現在は該当者はいない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面などを利用して季節感のある作品や個人の作品を飾っている。席は、机の配置も含め、ご利用者同士の相性を配慮して決めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の席以外に自由に使えるソファや相性を考慮した席順など配慮しており、独りが好きな方も、仲の良い方同士も、自由に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や家族との写真などを持って来ていただいている方もあります。物や衣料を自分で整理できない方もあり、一緒に居室の環境作りに努めている。出来る方は、居室掃除も一緒に行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室に、その方の状態に合わせた迷わない為の目印を付ける等の対応をしている。		